

X II-1 外来

1 概要

外来は、様々な感染症に罹患している患者が受診している。多くの患者は、症状が出現してから受診するため、外来や検査室の待合では飛沫や空気、接触感染などの感染源となる可能性がある。外来における標準予防策と患者教育、感染経路別予防策の実践は外来における有効な感染防止策である。

2 外来における感染のリスク因子

- (1) 受診患者の感染症が明らかではない。
- (2) 外来や検査などの待合で、他患と間近に接触するため、感染源に曝露する機会が多い。
- (3) 1人の医療従事者が多くの患者と接触するため、感染対策が省略されやすい。

3 外来における感染対策

- (1) 標準予防策の実践
 - ① 手指衛生の徹底：診察ブースごとにアルコール手指消毒剤を設置し、手指衛生を実施しやすい環境を常に整える。
 - ② 患者ごとの手袋着用と外した後の手指衛生の徹底
 - ③ 感染リスクに応じた防護用具の使用
 - ④ 血液、分泌物、吐物などは決められた方法で確実に処理する。
- (2) 空気感染対策（結核・麻疹・水痘・播種性帯状疱疹など）
 - ① 問診（相談コーナーあるいは診察ブース受け付け）の結果により、トリアージを行う。空気感染が考えられる疾患の症状（発熱、咳嗽、発疹など）を有する者は、優先的に診察する。
 - ② 空気感染症の疑いのある患者が診察を待つ必要がある場合は、他患者との同一空間の共有を避ける必要があるため、他患と離れたイスで待機する。
 - ③ 採痰は必ず、採痰ブース内または他陰圧エリア内で行う。
 - ④ 空気感染症の疑いのある患者にはサージカルマスク着用を促す。
 - ⑤ 空気感染症の疑いのある患者には必要最小限の検査のみ行い、他患者や職員の曝露を最小限にとどめる。また、他部門の検査を行う場合は、事前に検査部門へ必要な感染対策について伝達する。
 - ⑥ 空気感染症の疑いのある患者に対応する医療従事者は、N95マスクを着用し、空気感染予防策を実施する。
（結核：必ず着用　ウイルス感染症：抗体未獲得者は着用）

(3) 飛沫感染対策（インフルエンザ・風疹・ムンプス・マイコプラズマ肺炎など）

- ①問診（相談コーナーあるいは診察ブース受け付け）の結果により、トリアージを行う。また、飛沫感染が考えられる疾患の症状（発熱、咳嗽、発疹など）の有無、ワクチンや罹患の有無を把握し、必要に応じて優先診療を行う。
- ②飛沫感染症の疑いのある患者が診察や検査を待つ場合は、他患者との同一空間の共有を避けるか、他患者との距離を2～3m以上開けて、待機する。
- ③飛沫感染症の疑いのある患者にはサージカルマスク着用を促す。
- ④飛沫感染症の疑いのある患者には必要最小限の検査のみ行い、他患者や職員の曝露を最小限にとどめる。また、他部門の検査を行う場合は、事前に検査部門へ必要な感染対策について伝達する。
- ⑤飛沫感染症の疑いのある患者に対応する医療従事者は、サージカルマスクを着用し、飛沫感染予防策を実施する。